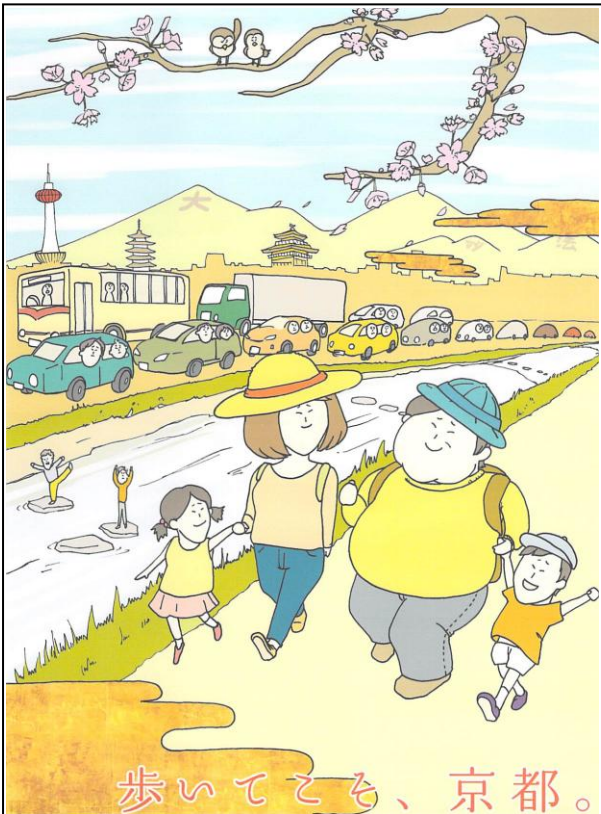


最優秀賞



北島 知也 京都工芸繊維大学学生
(京都市左京区)

作品のコンセプト

大渋滞している車道と対称的な歩いている家族の楽しそうな様子を、京都らしい風景とともに描きました。

優秀賞



荒谷 洋 (京都市西京区)

作品のコンセプト

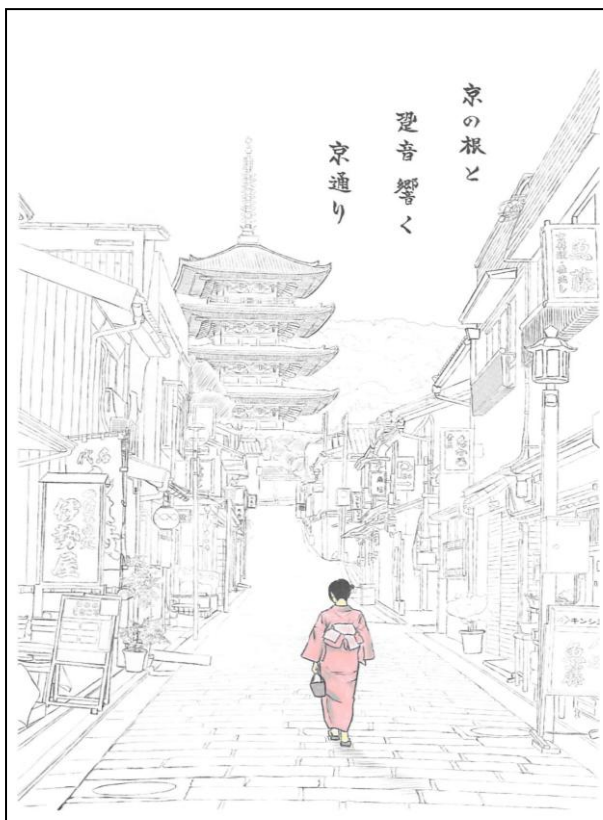
歩いてこそ触れることができる四季それぞれの趣のある「道」がテーマ。いにしえ人も歩いたであろう京の小径や石畳が幻のように浮かんでいきます。「車の流入を防ぐ」という、排他的な上からの目線より、受入側の準備と覚悟を憲章として表し、入浴される方を心から歓迎し、楽しんで歩いてもらい、京都を満喫していただけることを第一とした発想です。

優 秀 賞



谷井 郁野 (京都市南区)

優 秀 賞



深地 宏昌 京都工芸繊維大学学生
(京都市左京区)

作品のコンセプト

京都を歩いて感じとりたいと思わせるように、京都の趣あるまちかどの背景を用い、また、道が遠くまで続くように見える構図を利用し、歩く欲求をかきたてる。また、手書きのタッチ、着物の女性、川柳などを用いることで、全体として和のやわらかいイメージを統一している。川柳の跽音とは足音のことであり、「京の根」と「跽の音」がかかっている。

佳 作



小柴 雅樹 (兵庫県宍粟市)

作品のコンセプト

「京」の文字に汗をかいて
歩いていただきました。

佳 作



浦山 シルビア (香川県高松市)

作品のコンセプト

自分が好きなデザインを作った
秋が大好きです。

佳 作



小野 翔太郎 京都工芸繊維大学学生
(京都市左京区)

作品のコンセプト

今回のポスター作成に当たって、僕自身、京都を見たい、知りたい、感じたいと思い、散策に出かけました。意識を少し変えることで、いつもは何とも思わなかった風景がとてもおもしろく、美しいと感じることができました。そんな飾らない京都の風景を、ほんの一部ではありますが、たくさんの人々に知ってもらいたいと思い、そして関心を持ってもらうことができるように心がけて制作しました。また、撮影した写真をグリッド状に並べるシンプルな表現にとどめることで、基盤の目を彷彿させることができると思います。

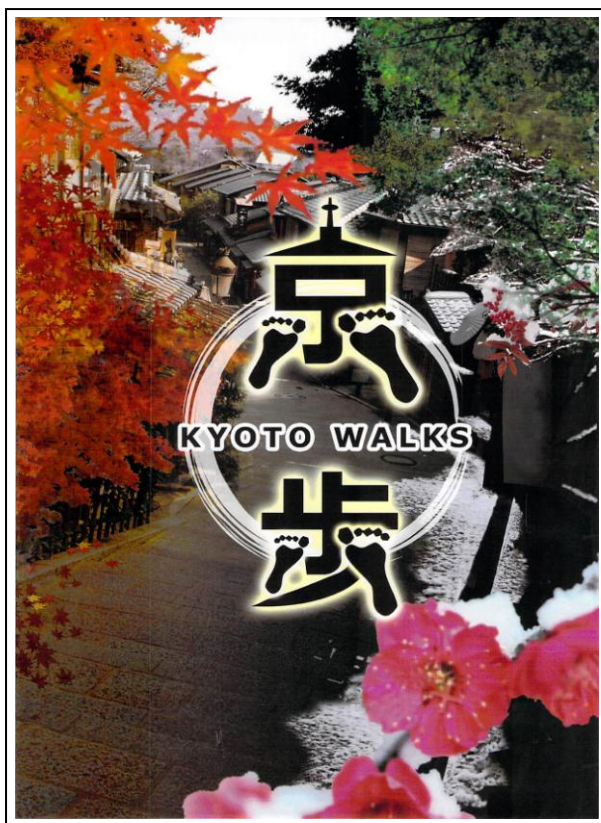
佳 作



由里 美沙織 京都女子大学学生
(京都市下京区)

作品のコンセプト

京都独特の京町屋の町並みは、実際自分の足で歩かないと見つけれない。歩くことにより本物の京都を味わっている2人を描いた。



劉 和輝 (京都市伏見区)

作品のコンセプト

山紫水明の自然あふれる京都のもつ奥深い四季を背景に表現しました。春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪。また冬から春にかけての芽生えに梅と粉雪を添えました。

観光客の誰もが訪れたい産寧坂(産寧坂の位置する清水周辺道路は、著しく渋滞が発生する箇所)の石畳を基調に、決して車では味わうことができない出来ない京都を位置付けることで必然的にゆっくりと歩いて一軒一軒の古い町並みや歴史を五感で堪能出来るイメージを作成しました。

さらにロゴマークについては、「歩いてこそ京都」を単語で略し「京歩(きょうほ)」と名付け親しみが持てるようにしました。加えて、一步一步、歩いて散策している子供から大人までの足跡を刻み、京の一には、京都ならではの寺院から五山を眺めるイメージを写しました。市バス、地下鉄などの公共交通機関を利用して、歩いて「京登(きょうと)」を促進する意味合いも含んでいます。サークル、輪(和)は、おもてなしの心であり、また京都を歩いて回るという意味も込めています。

さらに京都議定書のエコ宣言(Do You Kyoto?)としているように、「歩いてこそ京都」すなわち「京歩」を(Kyoto walks)と定義しました。

世界の観光都市、京都が世界中の観光客からも公共交通機関を使って歩きながら観光できる街として認知して頂くことを確信します。

最後に、私はこの作品をおもてなしの心を持って作成いたしました。